



プロゴルファー
さかたのぶひろ
坂田信弘さん

■プロフィール
1947年 10月、熊本市生まれ。京都大学
文学部中退
1971年 プロゴルファーを目指し、栃木県
鹿沼CCに研修生として入社
1975年 プロテスト合格
1988年 ナイジェリアオープン優勝
現在、福岡県椎田町の周防灘CC所属。
福岡県豊前市在住

プロゴルファーの経験に基づいた理論的な解説と軽妙洒落な語り口で、テレビや雑誌に引張りだこの坂田信弘さん。平成五年七月には、地元実業家たちと「熊本ジュニアゴルフ塾」を開講し、無償で指導に当たっています。自宅に帰る間もなく世界中を飛び回る毎日の坂田さんに、「ゴルフについて、またジュニア塾にかける夢について語っていただきました。」

モッコスは単に頑固なだけじゃない。 モッコスがひっくり返ったときの 可能性はスゴイよ。

プロ選手は明るさが必須条件

プロゴルフの世界に入ったのは、まあ、成り行きですよ。父が亡くなって学費が続かなくなり、大学をやめて働き出したんです。そのころちょうど、尾崎将司プロの活躍が華やかに取りざたされていたので、大学の恩師が「やってみたら」と。

でも、教授はゴルフをしない人で、僕もクラブを握ったことさえなかった

じだなあ。

僕の明るさは根っからのものだけど、プロスポーツ選手には、この明るさが必要なんです。ゴルフをするにも、常に明るい「躁」の状態を臨むこと。気持ちが暗いとミスショットを抱え込んでしまうからね。明るければミスも切ることができるんです。

プロの世界では、いいことは百のうち三つ。悲しいことが多いのが普通な

んだから、随分いい加減な話だね笑。研修生を経てプロテストに合格し、プロになり、いつのまにかモノ書きもしていた、という感

んです。自分が勝てないときでも、他人の勝利、幸せを見て耐えなさいいけない。明るい性格なら耐えられるんです。だから、活躍しているプロたちは、みんな明るいですよ。
自分を捨ててこそ進歩がある
研修生のころは、将来どうなるかなんて考える暇もなく、ひたすら球を打つ毎日でしたね。ちよつと悪い成績が出れば即、批判される世界。だから、



坂田さんの指導は「少し厳しい」

練習しているゾという姿を、いつも人前でアピールしてなきやいけないんですよ。文字通り身も心も素っ裸で……。実をいうと、僕が修業時代の辛さをくぐり抜けられたのは、自分が熊本県人だからだと思ってるんです。「自分を捨てることのできる県民性」。これが僕の中にあるなと。

なぜかという、自分を捨てることができる者は、自分を変えることができる。変わってこそ人は進歩できるんです。とくにプロスポーツ選手は、日々変わらなきやいけない。熊本県人はモッコスというけれど、ただ「頑固」の意味だけで止めちゃダメ。

ゴルフの世界では硬いものは必ずほぐせる。スイングでも関節でも、心もね。だからモッコスが一度ひっくり返ったときの可能性はスゴイよ、きつと。頑固は柔軟の裏返しでもあるんだね。僕は、そんな県民性を父と母から受け継いだことにとっても感謝してるんです。日本にいても海外にいても、熊本県人だという誇りをいつも持ってますよ。

熊本からメジャー大会の出場者を
地元友人たちの協力で発足した「熊本ジュニアゴルフ塾」には、現在、小五から中一までの子どもたちが二十二人。スタートから七カ月で、十人がハーフで四十台のスコアになった。すごいでしょう。これも地元で指導する四人のコーチの力があってこそ感謝しています。



僕はジュニアを指導する際、長所を徹底的に伸ばす。短所の矯正ばかりしているとケガにつながるし、長所もダメになっちゃうからね。

しかし、子どもたちもじきに「チャンピオンになれるのは一人だけ」と知る時期が来る。だから、今はまだ言わないけれど、将来辛くなったときには、どこにいても「熊本の練習場こそ故郷」と思ってもらいたい」と伝えたいですね。調子がいいときは帰って来なくてもいい。不調のときこそ受け止めてくれる「母なる場所」が熊本の練習場なんです。

やがて、このジュニアたちの中から日本オープン、全米オープン、全英オープン、マスターズに出る選手が出来ます。多分(笑い)。見ててください。それが僕たちの夢なんですから。



この中に、世界で活躍するトッププレイヤーが...